

短大の 共学化について 考える



福岡医療短期大学歯科衛生学科

1年生 小城 由衣さん

私たちが
取材しました



福岡医療短期大学歯科衛生学科

2年生 肥田 桜子さん



福岡医療短期大学歯科衛生学科

2年生 赤坂 胡桃さん



福岡医療短期大学歯科衛生学科

1年生 久野 華子さん

2023年から男女共学化がスタートする
福岡医療短期大学。
今回は共学化へ向けた学校の雰囲気や
男性歯科衛生士について、
学生たちが先生に聞いてみました。

教えてくれた
先生

福岡歯科大学
障害者歯科学分野
小島 寛 教授



福岡看護大学
地域・在宅看護部門
宮園 真美 教授

教えて先生！

学生…まず、歯科衛生士と同じようにほぼ女性の職業だった看護の分野から共学についてお尋ねしたいです。現在、福岡看護大学には何名の男子学生が在籍していますか？

宮園教授…各学年の学生数は1000人ほどですが、4年生は6人、3年生は10人、2年生が8人、1年生が9人なので、だいたい各学年10人弱くらいはいます。多い時には13人近くいる時もありました。他の看護大学も男子学生の人数は本学とさほど変わらないと思います。

学生…共学になった当時の雰囲気はどうでしたか？

宮園教授…私が最初に働いた大学では、80人中、男子学生が5人くらいだったので、男子学生がいることはもう普通でした。ただ、専門学校にいたときは女子学生ばかりでした。

男子学生がいると少し雰囲気が違つんですよ。女子学生ばかりだと、同性同士だからあまり遠慮しないで意見が言い合える感じがあつて、男子学生がいるとお互いの距離感を上手にとっている感じがします。

男子学生にも話を聞いてみると、入学当初は、やはりちょっと緊張するみたいなんです。だけどグループワークをしたり、話をしたりしているうちにだんだん打ち解けて、夏以降には気にならなくなるということを書いていました。

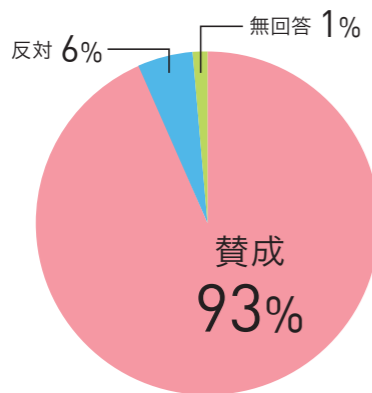
あとは、歯科衛生士という職業もそうだと思いますが、看護師もまだまだ女性が多い環境ですよ。だから、そこに実習などで男子学生が来ると、空気が少し柔らかくなるということはあるみたいです。

男性がいるという意味でお互いを上手に意識している、距離をとってやっているように見えます。

短大の
共学化について
考える

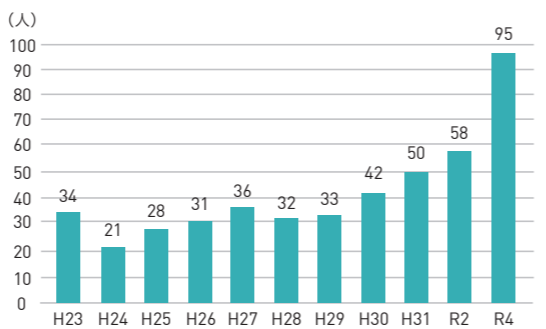
DATA
男性歯科衛生士について

男性歯科衛生士についてどう思いますか？



令和2年度福岡医療短期大学歯科衛生士科学生アンケート結果より

歯科衛生士養成学校における男子学生の推移



全国歯科衛生士教育協議会 歯科衛生士教育に関する現状調査の結果報告より
「男子在学生数の推移(平成23年度～令和4年度)」

小島教授：自身の経験として男性の看護師や歯科衛生士の実習生に出会ったことがあります。皆さんよく気が利いて、丁寧な方ばかりでした。外来で出会うことが少ないから、男性の歯科衛生士ってイメージがわからないなあって思うかもしれないけど、実は男性歯科衛生士の数は、歯科でも訪問診療の分野で伸びてきているんですよ。また、最近は口腔ケアが重要視されているので、老人保健施設でも看護師のほかに歯科衛生士



とも男性の看護師も当たり前になっています。同じように男性の歯科衛生士も当たり前の存在になっていくんですよね。

学生：男子学生はうまく統率を取ってくれそうだから、テキパキ指示をして、すぐに行動にうつせそうなのが感じます。

小島教授：例えば男性歯科衛生士がいたら、どのような業務をしますか？

学生：なるほど。自分の体験や身近な人から看護師という選択肢に気が付くんですね。歯科衛生士の場合、男性歯科衛生士さんはまだまだ少ないので、出会う機会もあまりないと思うんです。そうすると「歯科衛生士になりたい」と思うきっかけは少ないのではないのでしょうか。また、看護と違って頻繁に力仕事があるわけでもないし、逆に細かな仕事が多いので、「自分に向いている」と思ってくれるのでしょうか？

男子学生にも聞いてみましたが、あまり「女性が多い職業」と意識していないような感じがします。同じ勉強をして、同じ施設を利用していくので、違和感なくやっていけるようです。



学生：なんだか少しづつ、男性が私たちと同じ場所で働くイメージが浮かんできました。

小島教授：今はまだ法的に病院に歯科衛生士を配置する必要はないんだけど、これから法整備がされていくとすごく強い追い風となって、男性の歯科衛生士が働くイメージが具体的になるかもしれないですね。

宮園教授：私が知っている病院では、男性ではないですが、歯科衛生士さんが様々な場面で、口腔に関して活躍しているんですね。これからそうやって、歯科衛生士という職業そのものの活躍の機会は増えてくるでしょうね。そうした中で、女性だけでなく男性の需要も高まっていくかもしれません。

を配置したいと考えられているところも多いようです。そうした何か機材を持ち運ばないといけないところや、患者さんの体位を変えなくてはいけないところで、男性が求められていることもあるんじゃないかと思っています。



福岡看護大学は、男性の先生方が8人いらっしゃるんですけど、急性期のオペ室師長や副看護部長などの役職を経験されておられたり、臨床経験が豊富な方ばかりなので、そういったロールモデルが身近にいると、看護師も志望しやすいですよ。

宮園教授：人によっては「医学部に行きたかったけど、行けなくて」という方もいらっしゃるんですけど、最近では、将来を考えるとこれから看護師を希望している方が多いように思います。例えば、自分の家族が病気になって、一緒に病院へ付き添った時に、「看護師っていい職業じゃないか」と思ったとか、病院などで男性看護師が活躍しているところを見て、「ああ、こっちは選択肢があるんだ」と思ったという話もあります。

学生：まだ女性が多く働いているイメージがありません。そもそも男性が看護師を目指すきっかけはどのようなケースがあるのでしょうか？

また、深刻な病気を抱える男性の患者さんを受け持ったりした時に、異性に自分の弱みをあまり見せたくないと思うこともあるみたいで、男子学生が一緒にいると、すごくお互いシンパシーという不安を表に出しやすかったと言われることもありました。

昔は「男子の看護師さんですか」「男性ですか」と言われることがあったかもかもしれませんが、今は男性看護師がポピュラーになってきているからかもしれないですけど、自然と受け入れられているように感じています。

お互いが持っている視点が共有されるので、学びが深まり、価値観も広がります。



学生：登院実習とかで男性も実習をしようと思うんですけど、その時の患者さんの反応はどうですか？

宮園教授：デメリットを考えてみましたが、あまりないとは思っています。特に学習面では良いことばかりだと思います。お互いが持っている視点が共有されるので、学びが深まり、価値観も広がります。それ以外では男女間で遠慮をしているのかと思いきや、意外と打ち解けているので、総合的にデメリットは感じていません。

ただ、性差が出てくるため、母性の実習(赤ちゃんを産むような場面等)などでは制限されたりするところはありますけど、そうしたことを知ったうえで性差を乗り越えるというところはできていると思います。どうしても乗り越えられないところというたら、トイレや更衣室といった設備面でしようか。

学生：登院実習とかで男性も実習をしようと思うんですけど、その時の患者さんの反応はどうですか？

宮園教授：20年配の女性の患者さんとかは、身体を拭いたり、とても近いケアをする時は「ちょっと男の人...」と言われるときもあります。でも、かえって男性のほうがいいと言っている患者さん多いらしいです。反応はさまざまです。患者さんによっては、自分の出した部分と隠したい部分があるので、